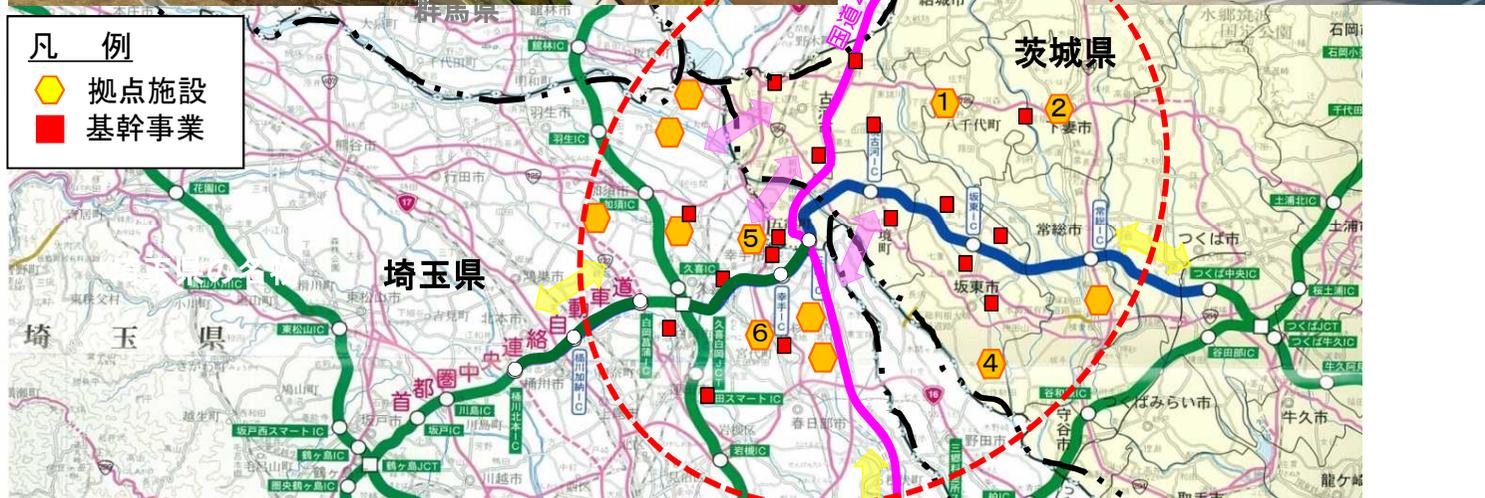


圏央道・新国道4号を軸とした茨城埼玉交流圏域活性化計画

計画の概要

茨城県と埼玉県を東西に連携させる首都圏中央連絡自動車道の開通と、南北に連携させる国道4号(春日部古河バイパス)の4車線化整備により、両県の2つの主軸となるネットワークが形成された。この交通ネットワークの変化を契機に、県境を越えた新たな観光ルートや各観光施設間の連携を図り、地域の周遊性を高めることにより、交流圏域の魅力発信の強化や地域活性化を図る。

位置図



凡 例
 ● 拠点施設
 ■ 基幹事業

計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標
 交流圏域の観光入込客数の増加
 H26:1,386千人 → H32:1,401千人
 (15千人増、1.1%増)

主な事業
 観光拠点へのアクセス向上のための道路整備
 観光パンフレット作成

山梨埼玉広域観光活性化計画

計画の概要

山梨埼玉交流圏域において、交流・連携した取組を通じて、地域の価値を高め、豊かなくらしを実感できる魅力あふれる圏域づくりを進めていくことにより、地域活性化を図る。

位置図



凡 例
 ● 拠点施設
 ■ 基幹事業



計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

交流圏域の観光入込客数の増加
 H26:27,619千人 → H32:31,959千人
 (4,340千人増 16%増)

主な事業

観光拠点へのアクセス向上のための道路整備
 広域案内マップ作成

飛越交流圏域活性化計画

計画の概要

富山県と岐阜県は、世界遺産である「白川郷・五箇山合掌造り集落」のほか魅力的な観光資源を数多く有しており、「富山・岐阜交流の日」協定や「昇龍道プロジェクト」など広域観光の共同推進に力を注いでいるところである。

これに加え、北陸新幹線の開業や、東海北陸自動車道の4車線化など高速交通ネットワークの進展によって、飛騨越中エリアは更なる観光客の増加が見込まれているところである。このことから両県が連携して広域的な周遊観光ルートの道路整備などを推進し、地域振興を図る。

位置図



凡 例

- 拠点施設
- 基幹事業
- 半島振興計画(能登地域)
- 連携中枢都市圏(仮: 奥西圏域)



2.海王丸パーク



3.三井アウトレットパーク



4.五箇山合掌造り集落



5.白川郷(世界遺産)



1.立山黒部アルペンルート



6.高山陣屋



7.下呂温泉

計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

交流圏域の観光客入込数の増加
 H26: 3,471万人 → H32: 3,895万人
 (424万人増、17%増)

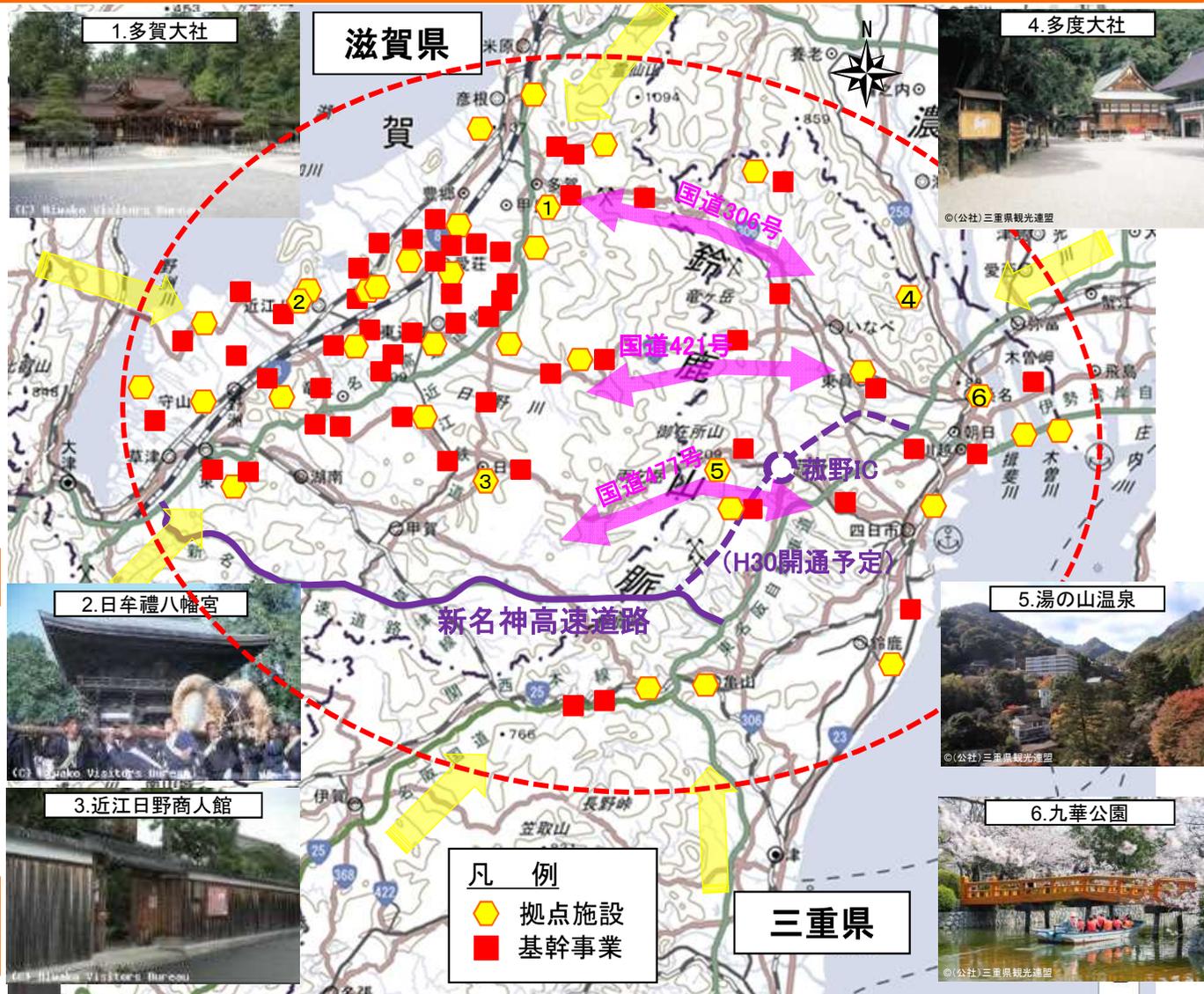
主な事業

観光拠点へのアクセス向上のための道路整備
 観光施設案内標識

三重・滋賀交流圏域における広域観光活性化計画

計画の概要

三重県と滋賀県は古くから交流が盛んであり、沿道には歴史的な遺産や豊かな自然環境を生かした観光施設が多数存在している。また滋賀を含む中部北陸圏では、圏域の知名度向上と海外からのインバウンドを推進する「昇龍道プロジェクト」に取り組んでいるところである。本交流圏域では、国道421号(石榑峠道路)の開通や平成30年度の新名神の開通が予定されており、これら幹線道路を軸とした各観光拠点への道路ネットワークを整備することにより、広域的な観光活性化を図る。



計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

交流圏域の観光入込客数の増加
 H26 3,448万人→H32 4,002万人
 (554万人増、16%増)

主な事業

観光拠点へのアクセス向上のための道路整備

京都・奈良・和歌山における自転車を活用した広域観光活性化計画

計画の概要

多くの歴史・自然観光資源などを有する京都府、奈良県、和歌山県が連携し、観光地などの拠点施設を結ぶ広域自転車道を整備するとともに、サイクリングマップ作成などのPRを行うことにより、府県内外からの誘客を促し、自転車をツールとした観光振興や地域の活性化を図る。

位置図



計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

交流圏域の観光入込客数の増加
H26: 3,975万人 → H32: 4,371万人
(396万人増、10%増)

主な事業

広域的な自転車道整備
サイクリングマップの作成、サイン整備 等



1.嵐山周辺の世界遺産 (渡月橋)



2.山城地域の名所 (上津屋橋)



6.和歌山城

凡 例

- 拠点施設
- 基幹事業
- 半島振興計画 (紀伊地域)



3.古都奈良の文化財(東大寺)



4.飛鳥・藤原の宮都と関連資産群 (藤原宮跡)



5.貴志駅



※上図は地理院地図 (<http://maps.gsi.go.jp/>) をもとに作成

大丹波圏域広域活性化計画

計画の概要

大丹波圏域において、北近畿豊岡自動車道や舞鶴若狭自動車道、平成27年度に全線開通した京都縦貫自動車道を軸として、観光拠点間のアクセス強化等により周遊観光を促進し、観光エリアとしての魅力を高め、広域的な地域の活性化を目指す。

位置図



凡例

- 拠点施設
- 基幹事業



1. 福知山城



2. 庶民の森ひよし (全国植樹祭会場)



4. 篠山城跡



3. 丹波竜化石工房「ちーたんの館」

計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

交流圏域の観光入込客数の増加
1,400万人(H27) ⇒ 1,469万人(H32)
(69万人増、5%増)

主な事業

観光拠点へのアクセス性を向上させる道路整備
観光拠点の魅力・安全性を高める河川整備 等

高規格道路（北関東・関越・圏央・東北）沿線地域における広域的産業・物流活性化

計画の概要

群馬県・埼玉県においては、自動車関連産業等の産業拠点が点在し、両県間の物流も盛んである。また、平成27年には埼玉県内の圏央道が全線開通し、高規格道路（北関東・関越・圏央・東北）に取り囲まれた利便性の高い地域になっており、さらにスマートICの開設が予定されるなど、本地域の産業立地の優位性が高まっている。

このポテンシャルを活かすため、群馬県・埼玉県の両県をつなぐ道路、及び高規格道路と産業拠点とのアクセス道路を整備して物流機能を高めることにより、広域的な競争力を強化し、本地域の更なる産業活性化を図る。

位置図



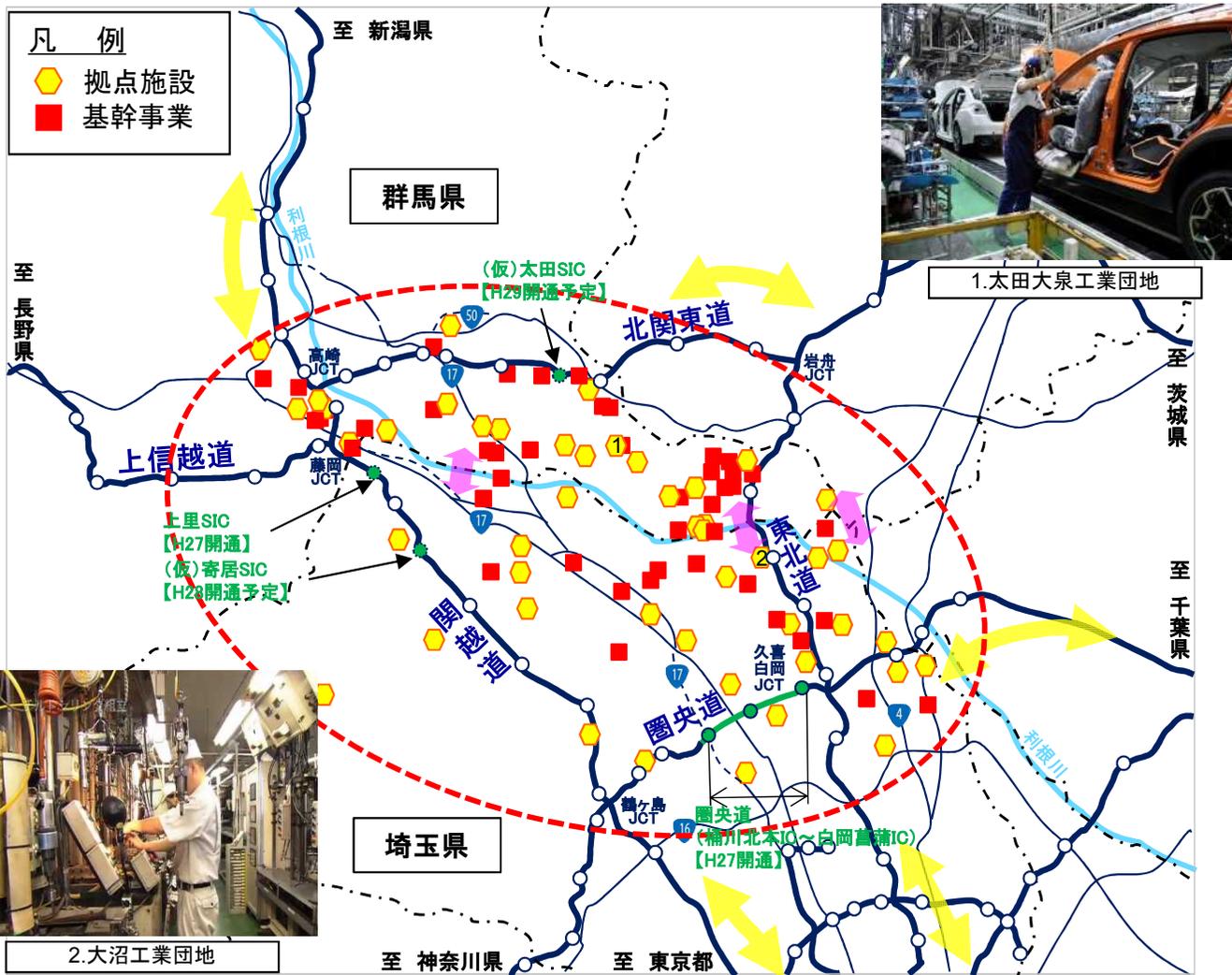
計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

計画地域における製造品出荷額の増加
 H26:1,332百億円→H32:1,480百億円
 (148百億円増、11%増)

主な事業

- 産業拠点へのアクセス向上のための道路整備
- 産業拠点・アクセスルート安全性を高める河川整備



愛知岐阜長野における広域的産業・物流活性化計画

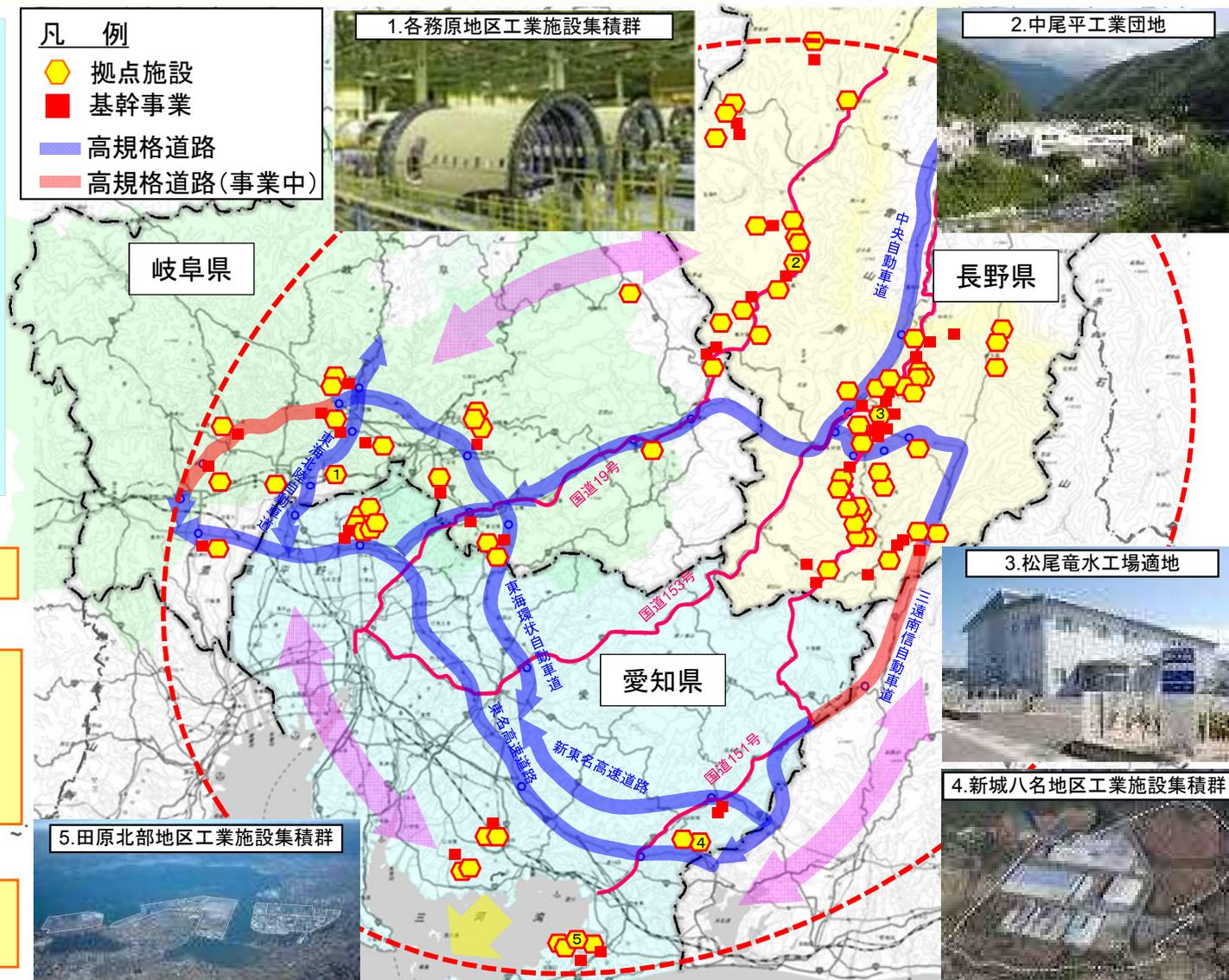
計画の概要

本地域は、世界トップクラスの自動車関連産業、航空宇宙産業などを中心に、密接な連携による産業・物流活動が活発に行われている。さらに、低燃費・次世代自動車、航空旅客機などの世界的な需要拡大が見込まれており、本地域における産業のポテンシャルが飛躍的に高まっている。
このポテンシャルを活かし、拠点施設と高規格道路を結ぶ道路整備による産業・物流活動の支援を進め、本地域における物流の信頼性・効率性を高め、さらなる産業活性化を図る。

位置図



- 凡 例
- 拠点施設
 - 基幹事業
 - 高規格道路
 - 高規格道路(事業中)



計画期間 平成28年度～平成32年度

目標を定量化する主な指標

計画地域の製造品出荷額等の増加
H26: 8兆9,561億円 → H32: 9兆5,118億円
(5,557億円増、6%増)

主な事業

産業拠点へのアクセス向上のための道路整備